# 芦生演習林公開講座参加者の動向

黒田眞人

## 1 はじめに

京都大学農学部附属演習林芦生演習林では，1991年度から一般市民を対象に，森林の働きや人との関わりについて公開講座を開いてきた。この講座も1995年度で5回目を迎えたので5年間の応募者及び参加者の動向をまとめてみる。

本報告では，公開講座への応募者の申込み資料と，公開講座の最終日に行ってきたアンケート結果をもとに分析する。応募者については1991年度の電話等での追加申込み分の記録が残されていないため，1992年度からの4年間についてまとめる。アンケート内容は公開講座の運営，企画，芦生演習林に対する意識等を質問するものである。回収率は毎回ほぼ100%であった。第一回目のアンケート結果についてはすでに報告されている[1)]。ここではその分も含めた動向を分析対象とした。なお5回の講座の間にアンケート内容を一部変更しているので，5回分のデータが採れていない項目もある。

## 2 応募者の動向

芦生演習林公開講座への1992〜1995年度の応募者の動向を調べた。

応募者の居住地を京都市とそれ以外に分けて表－1に示した。応募者数は1994年度を除いて，

表－1 居住地別応募者数

単位：人，%

| | '92 | 比率 | '93 | 比率 | '94 | 比率 | '95 | 比率 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 京都市 | 40 | 44.0 | 41 | 45.1 | 50 | 31.6 | 29 | 31.2 | 160 | 37.0 |
| その他 | 51 | 56.0 | 50 | 54.9 | 108 | 68.4 | 64 | 68.8 | 273 | 63.0 |
| 計 | 91 | 100.0 | 91 | 100.0 | 158 | 100.0 | 93 | 100.0 | 433 | 100.0 |

比率は、計に対する値

大きな違いはなく毎年約90名であった。1994年度だけが158人と他の年に比べて多くなっているが，その理由は不明である。

応募者の住所では，京都市在住者が4年間全体で37%を占めていた。年度別にみると，1994，

Masato KURODA
Participant in the open seminar of Kyoto University Forest in Ashiu.

1995年度は，前2回より減少している。京都市以外の応募者ではほとんどの人が関西圏に住んでいた。

年度別の応募者の男女比は，表－2のように1995年度はほぼ半分ずつの割合であったが，他の

表－2 応募者数の男女比率（'92～'95）

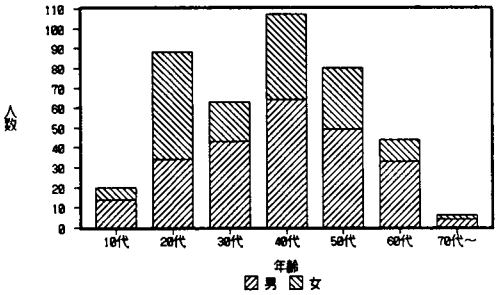
単位：人，%

| | '92 | 比率 | '93 | 比率 | '94 | 比率 | '95 | 比率 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 53 | 58.2 | 49 | 53.8 | 94 | 59.5 | 45 | 48.4 | 241 | 55.7 |
| 女 | 35 | 38.5 | 35 | 38.5 | 56 | 35.4 | 41 | 44.1 | 167 | 38.6 |
| 不明 | 3 | 83.3 | 7 | 7.7 | 8 | 5.1 | 7 | 7.5 | 25 | 5.8 |
| 計 | 91 | 100.0 | 91 | 100.0 | 158 | 100.0 | 93 | 100.0 | 433 | 100.0 |

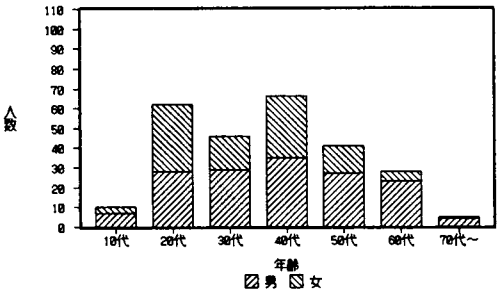
比率は、計に対する。値不明は性別が記入されていなかった申込分

年度は男性の応募者が60%前後を占めていた。あまり大きな差はみられないが，若干，男性の方がこの講座に興味を示しているといえる。

応募者の年齢別構成（図－1）をみると，男性では40代，女性では20代が最も多い。女性の20代には学生が多いようである。




図－1 応募者の年齢構成（'92～'95）




図－2 参加者の年齢構成（'91～'95）

## 3 参加者の動向

ここではアンケート結果からまとめた参加者の動向について述べる。

1991～1995年度までの参加者数は表－3の通りである。男女比をみると，応募者の男女比とほぼ同じであった。また，年齢別構成（図－2）も応募者とほぼ同じ様な構成になっており，男性40代，女性20代が多くなっていた。これらより，参加者は応募者をほぼ代表していると考えられる。

表－3 参加者の男女比率

単位：人，%

| | '91 | 比率 | '92 | 比率 | '93 | 比率 | '94 | 比率 | '95 | 比率 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 34 | 59.6 | 31 | 66.0 | 28 | 59.6 | 33 | 61.1 | 27 | 50.9 | 153 | 59.3 |
| 女 | 23 | 40.4 | 16 | 34.0 | 19 | 40.4 | 21 | 38.9 | 26 | 49.1 | 105 | 40.7 |
| 計 | 57 | 100.0 | 47 | 100.0 | 47 | 100.0 | 54 | 100.0 | 53 | 100.0 | 258 | 100.0 |

比率は、計に対する値

公開講座についての情報の入手方法（表－4）については，ポスターか新聞を見て知ったという人が約70%と過半数を占めた。知人から聞いたというものの中にも，ポスターまたは新聞を見た知人から聞いたというケースもあると考えられるので，ポスターと新聞が一般市民に公開講座の存在を伝達するもっとも有効な手段であると思われる。

表－4 『公開講座をどこで知りましたか』

単位：人，%

| | 人数 | 比率 |
|---|---|---|
| ポスター | 113 | 43.1 |
| 新聞 | 79 | 30.2 |
| 知人 | 42 | 16.0 |
| その他 | 28 | 10.7 |
| 計 | 262 | 100.0 |

比率は、計に対する値

参加者の交通手段（1993～1995年度）としては，自家用車での来演がもっとも多かった（表－5）が，これはほとんどの人が関西在住であったためと思われる。

参加以前から芦生の森林を知っていたかどうか（表－6）ということと，今までに何回来演したことがあるか（表－7）を質問した（1992～1995年度）。表－6を見ると，芦生のことをはじめて知って参加した人が10～16%おり，公開講座が芦生演習林の存在をより多くの人に知ってもらう機会としても役に立っていることを示している。一方，表－7を見ると，いままでに来演し

表－5 芦生演習林までの参加者交通手段（'93～'95）

単位：人，%

| | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自家用車 | 21 | 27 | 21 | 69 | 44.8 |
| バス | 12 | 14 | 7 | 33 | 21.4 |
| バイク | 2 | 1 | 2 | 5 | 3.2 |
| 鉄道・バス | 11 | 10 | 22 | 43 | 27.9 |
| その他 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2.6 |
| 計 | 47 | 54 | 53 | 154 | 100.0 |

比率は、回答数154に対する値

表－6 『「芦生の森林」のことを以前から知っていましたか』（'92～'95）

単位：人，%

| | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 今回はじめて知った | 12 | 10 | 16 | 16 | 54 | 28.4 |
| 以前から知っていた | 31 | 37 | 31 | 37 | 136 | 71.6 |
| 計 | 43 | 47 | 47 | 53 | 190 | 100.0 |

比率は、回答数190に対する値

表－7 芦生の演習林来演回数（'92～'95）

単位：人，%

| | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| はじめて | 27 | 26 | 29 | 31 | 113 | 58.9 |
| 1～2回 | 5 | 14 | 11 | 14 | 44 | 22.9 |
| 3～5回 | 5 | 5 | 6 | 5 | 21 | 10.9 |
| 6回以上 | 6 | 2 | 3 | 3 | 14 | 7.3 |
| 計 | 43 | 47 | 49 | 53 | 192 | 100.0 |

比率は、回答数192に対する値

たことがあるという人が全体の41%で，公開講座が芦生の森林についてより深く知りたいという参加者にも好まれていることを示している。

しかし全体を見ると，芦生のことを以前から知っていたという人が全体の71.6%であるのに対して，芦生にはじめてきたという人が58.9%と割合多いことから，公開講座を利用して一度芦生の森林を見てこよう，という気持ちで参加する人が多いと思われる。

## 4 公開講座に対する評価

公開講座は例年7月か8月に2泊3日の日程で開催しているが，開催希望時期（表－8）では約7割の参加者が，開催希望日数（表－9）では約8割の参加者が，現状と同じ日程を答えており，ほぼ参加者の満足のゆく日程になっているといえる。

表－8 開催希望時期

単位：人，%

| | '91 | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今回の時期で良い | 44 | 30 | 36 | 36 | 41 | 187 | 73.0 |
| 他の時期が良い | 13 | 17 | 11 | 16 | 12 | 69 | 27.0 |
| 計 | 57 | 47 | 47 | 52 | 53 | 256 | 100.0 |

比率は、回答数２５６に対する値

表－9 開催希望日数

単位：人，%

| | '91 | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1泊2日 | 4 | 2 | 1 | 4 | 3 | 14 | 5.4 |
| 2泊3日 | 45 | 38 | 41 | 44 | 36 | 204 | 78.5 |
| 3泊4日 | 8 | 7 | 3 | 8 | 11 | 37 | 14.2 |
| 4泊5日 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 5 | 1.9 |
| 計 | 57 | 47 | 47 | 56 | 53 | 260 | 100.0 |

比率は、回答数２６０に対する値

日程に対するその他の希望としては，開催時期では，新芽の多くみられる季節，花の多くみられる季節，紅葉する季節という希望が多く，春と秋の2回開催して欲しいという意見もあった。開催日数では，3泊4日にして，山を歩く日を1日多くとって欲しいという希望が出ていた。公開講座のプログラムは室内講義が2日，林内実習が1日となっているが，この結果からすると山歩きを楽しみたいという人には，物足りないものであると考えられる。開催日数については多くの人が満足していることからすると，今後は講義と実習の時間配分について考慮する必要があると思われる。

参加にかかった費用（受講料，交通費，宿泊費）については，「満足」，「まあまあ満足」という解答がほとんどであり，「不満」という解答は2.1%であった（表－１０）。その反面，食事をもう少し良くして欲しい，もう少しいいところに泊まりたいという要望も多かった。また，受講料は6,000～7,000円程度であるが，これで足りるのかという意見もあった。全体的にみて，金額的には満足しているが，もう少し参加費が高くなっても宿泊場所や食事を良くした方が，さら

表－10 参加にかかった費用についての評価

単位：人，％

| | '91 | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 満　足 | 37 | 29 | 25 | 31 | 34 | 156 | 65.6 |
| まあまあ | 16 | 13 | 21 | 12 | 15 | 77 | 32.4 |
| 不　満 | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 | 5 | 2.1 |
| 計 | 53 | 42 | 47 | 45 | 51 | 238 | 100.0 |

比率は、回答数２３８に対する値。費用には受講料、交通費、宿泊費を含む

に高い満足を与えられるかもしれない。

ちなみに宿泊施設に対する不満，要望としては，トイレが臭い，風呂を男女別々にして欲しい，網戸が欲しい（虫が多いため），部屋が狭すぎる等の意見が多い。また，現在は宿泊場所はすべてこちらが指定しているが，他の所に泊まりたい人は，自由にできるようにして欲しいという意見もあった。

次に，公開講座に何を期待して来たかを見てみる。回答は，７項目から選択形式となっている。表－１１を見ると，植物について知りたい，森林を見て歩きたい，芦生について見たり，聞いたりしたいという解答が高い値を示しているが，林業について知りたい，山の生活について知りたいという項目に対する回答は低い値を示している。これから考えると，参加者の多くは森林と人との関わりについて興味があると言うより，森林や植物そのものに興味を持っているといえる。

企画内容についての要望をきいてみたところ，一般の人に分かりやすいように基礎的で全体的なことから説明してほしいという意見があり，多少，講義が専門的すぎるのかもしれない。一方，動物の生態について詳しく知りたいという意見や，鳥について知りたい，クマについて知りたい，トチノキについて知りたい，林業経営について知りたい，バランスのとれた森林利用について聞きたい等，専門的で様々な視点からの要望もある。つまり，参加者には森林に関することにわりと詳しい人と，そうでない人がいると考えられる。今後，受講者全員に満足が得られるように，講義の方法などに工夫が必要であろう。

表－11 公開講座への期待

単位：人，％

| | '91 | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 動物について知りたい | 12 | 14 | 10 | 15 | 16 | 67 | 8.9 |
| 植物について知りたい | 49 | 135 | 30 | 34 | 39 | 187 | 24.8 |
| 林業について知りたい | 16 | 11 | 21 | 17 | 11 | 76 | 10.1 |
| 山の生活について知りたい | 11 | 9 | 5 | 5 | 14 | 44 | 5.8 |
| 森林を見て歩きたい | 47 | 37 | 37 | 46 | 41 | 208 | 27.6 |
| 芦生について見聞きしたい | 38 | 27 | 33 | 28 | 38 | 164 | 21.8 |
| 余暇として | 0 | 1 | 2 | 3 | 1 | 7 | 0.9 |
| 計 | 173 | 134 | 138 | 148 | 160 | 753 | 100.0 |

比率は、回答数７５３に対する値

参加者に対して，再度公開講座に参加したいかをきいた結果が表－１２で，参加したくない人はほとんどおらず，毎年，１人いるかいないかである。わからないと答えた人の中にも，新しい内容であれば再度参加したいという人がおり，ほとんどの参加者がこの公開講座に満足して再び

表－12 『今後、芦生で公開講座が開催された参加したいですか』

単位：人，％

| | '91 | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加したい | 47 | 38 | 39 | 40 | 47 | 211 | 86.1 |
| 参加したくない | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1.2 |
| わからない | 9 | 4 | 8 | 6 | 4 | 31 | 12.7 |
| 計 | 56 | 43 | 47 | 47 | 52 | 245 | 100.0 |

比率は、回答数２４５に対する値

来たいと考えているといえる。

また，公開講座とは別に芦生演習林に来てみたいか（表－１３）についてきいてみると，全体の約95％の人が来たいと答えており，その目的は，動植物の観察，ハイキング，キャンプ，森林浴，釣り，水を飲みたい等となっている。

表－13 『再度、公開講座とは別に芦生に来てみたいですか』

単位：人，％

| | '91 | '92 | '93 | '94 | '95 | 合計 | 比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 来てみたい | 52 | 35 | 44 | 44 | 51 | 226 | 95.4 |
| 来てみたくない | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0.8 |
| わからない | 2 | 2 | 3 | 2 | 0 | 9 | 3.8 |
| 計 | 54 | 38 | 47 | 46 | 52 | 237 | 100.0 |

比率は、回答数２３７に対する値

## 5 ま と め

芦生演習林公開講座は森林の働きや人との関わりについて一般市民に理解してもらうということで開かれてきた。しかし参加者の多くは森林と人との関係よりも，森林または植物そのものに関心があり，こちらの意図したものと参加者の期待には多少のずれがあるようであった。また宿泊施設への不満から判断すると，普段は都市部に住んでいる人が森林を楽しむために参加したが，不便な環境は嫌だ，とも受け取れ，学習の機会というよりもレジャー感覚で参加する人も多いようであった。この傾向から考えると，森林についての基礎的なことを学ぶ講座と，応用的なことを学ぶ講座に分けて行うなどして，徐々に関心を広げていく必要があると思われる。

またこの公開講座によって芦生の森林を知り，再度来演したいという人も多いことから，一般の人が森林とより親しむ機会になっている点では評価されるべきだといえる。

最後に，とりまとめにあたってご協力いただいた芦生演習林の教職員の方々に謝意を表したい。

## 6 引 用 文 献

1）枚田邦宏・大畠誠一・山中典和・中島皇（1992）芦生演習林利用者の実態と意識について．京大演集報．**23**．129－138．